

校長室だより

国立市立国立第七小学校長 森田弘文

平成26年1月18日 NO.30

小学校学習指導要領より

国語科の学習は、大きくA話すこと・聞くこと、B書くこと、C読むことの3領域からなっています。その中の書くことについては、作文はもちろん、詩や物語など創造的な内容について書くこと、説明や報告、紹介や手紙などの日常生活で活用されるものを書くこと、学級新聞などに表すことなどの言語活動例が示されています。指導項目としては、課題設定や取材・構成・記述・推敲・交流等について記されていますが、以下、構成と記述についての項目をご参照下さい。

各学年における「書くこと」の指導事項

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
構成に関して	○自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	○文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。	○自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。
記述に関して	○語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。	○書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ○文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。	○事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ○引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。

校長先生の作文教室（作文を楽しんで書くための22条の憲法）

- 1 作文用紙の使い方を守るべし。題名・名前・書き出しなど…。
- 2 段落を使い、それぞれまとまりのある作文にすべし。
- 3 常体と敬体を統一して書くべし。ただし、例外あり。
- 4 句点・読点を使い、読みやすい文にすべし。
- 5 句点・読点は、原稿用紙の一番上には書かない。一番下に書くのはOK。
- 6 書き出しに一工夫をすべし。
- 7 会話文を入れて、変化のある作文にすべし。様子のよくわかる作文にすべし。
- 8 いろいろな接続詞を上手に使うこと。接続詞の後は読点忘れずに。
- 9 一文の長さに気をつけるべし。だらだら長い文章は文がねじれてわかりづらい。
- 10 習った漢字は使うべし。習っていないなくても書ける漢字はOK。
- 11 カタカナ言葉はカタカナで。擬音語・擬態語もカタカナで。
- 12 始め・中、終わりをきちんと分けて書くべし。
- 13 まず、次に、その後、それから、最後に、と順序よく書くべし。
- 14 全体的に内容の強弱をつけて変化をつけて書くべし。
- 15 作文の量はあまり長すぎずに、あまり短かすぎずに。
- 16 同じ言葉や同じ文章はなるべく使うべからず。
- 17 譬喩（ひゆ）表現を使って、楽しくくわしくおもしろく書くべし。
- 18 体言止め・倒置法・言い切り・繰り返しなどを使って、変化ある文章で楽しむべし。
- 19 事実だけでなく、感想をしっかりと入れて書くこと。主張をはっきりと！
- 20 何を感じたか、どう思ったかなど、自分にしか書けない作文を！
- 21 書き終わった作文は、必ず読み返しをして、推敲（すいこうーていせい）をするべし。
- 22 書き終わった作文は、友達と見せ合い、良いところを見つけて感想を伝えあうべし。



現在まで22条ですが、今後様々な意見を取り入れ、研鑽も重ね、加筆訂正して行く予定です。